第２０回　花の国づくり共励会

花き技術・経営コンクール
受賞者の業績概要

平成２３年３月

日本花き取引コード普及促進協議会

第２０回花の国づくり共励会花き技術・経営コンクール

表　　彰　　式

平成２３年３月１６日（水）１３：３０～
農林水産省共済組合「南青山会館」
東京都港区南青山５－７－１０
TEL　０３－３４０６－１３６５

表　彰　式　次　第

１　開会あいさつ

２　審査講評
審査委員長　日本大学生物資源科学部　教授　腰岡政二

３　賞状授与

農林水産大臣賞	１点
農林水産省生産局長	３点
財団法人日本花普及センター会長賞	１点

４　祝　辞

５　記念撮影

６　懇談会
表彰式と記念写真撮影の終了後、出席者による懇談会を開催

第２０回花の国づくり共励会（平成２２年度）花き技術・経営コンクール

審　査　講　評

第２０回花の国づくり共励会花き技術・経営コンクールは、花の国づくり都道府県協議会などより推薦がありました経営体について、６名の審査委員による提出された書類に基づく第１次審査と、現地での第２次審査を通して厳正に行われ、本共励会の最高賞である農林水産大臣賞には、次の経営体が選ばれました。

埼玉県深谷市の横川保次氏は、高校を卒業後、農業とは異なる民間企業の業務を経験しました。その後、花きに関心を持つようになり、東京都内でフラワーショップの経営を開始しました。経営を通して花きに対する消費者ニーズを捉え、それに応えるための商品企画の重要性を学び、この経験を基に、３１歳の時に就農しました。

当時、氏の父親は、深谷市で切り花生産を営んでいましたが、氏はこれまでの経験を生かした独自の経営を目指して２，０００㎡のハウスを新設し、スイートピー、ケイトウ、ラベンダーなどの鉢物生産を開始しました。

その後、施設の拡充や、ユリ、ストック、カラー、チューリップなどの新品目の導入を経て、平成７年に有限会社「横川花園」を設立しました。現在では温風暖房機、細霧冷房装置などの設備を備えた鉄骨ハウスの活用、球根の開花調節のための冷蔵庫の導入及び従業員の常時雇用などによりユリ、チューリップの球根鉢物生産を中心とした経営を確立しています。

経営の主力であるユリについては、オランダ国際球根協会に入会し、定期的にオランダへの現地視察を行い、鉢物向き品種の情報収集に力を入れています。また、自社の冷蔵庫の活用による球根の冷蔵処理、温室の温度管理、日長処理を駆使して、周年出荷と良品生産を可能にしたことで全国の市場から高い信頼を得ています。また、深谷市は老舗のチューリップ切り花産地であることから、地元の情報を有効に活用し、チューリップの鉢物生産を経営の中でユリに次ぐ主力商品に育て上げ挙げました。さらに、ユリの鉢の間に生態特性の異なるギボウシの鉢を置くことで、ベンチの有効利用を図るとともに、経営の中に新たな商品として位置付けています。

雇用面では、年間を通した雇用、傷害保険の加入、休憩室の整備等の勤務条件を充実し、質の高い労働力の確保に努めています。作業面では、移動ベンチ

やアルミ台車の導入、ハウスや出荷所おけるフオークリフトなどの作業機の利用、自動消毒機や自動潅水設備の導入などで、労働軽減を図っています。
　ユリ、チューリップでは、エコファーマーの認定を受け、環境保全にも配慮し、安全・安心な花きの生産に取り組んでいます。更に、知的障害者授産施設への商品の提供、キッズガーデニング教室を通した「花育活動」の援助など積極的な社会貢献も行っています。
　このように、ユリ、チューリップを鉢物として商品化し、新技術の導入や施設の有効利用により安定した生産体制を整備し成功を収めていること、地域の生産振興や後継者育成に活躍されていること、過去３年間の出荷数量、経営収支ともに安定していることなどが高く評価され、農林水産大臣賞に値すると判定されました。

　農林水産省生産局長賞に選ばれました次の３経営体は、以下に述べる点で高く評価されますが、農林水産大臣賞に選ばれた経営体に収益性、経営の安定性の上で僅かに及ばないと判断されました。

　岐阜県郡上市の河合修氏は、３０歳の時に「河合園芸」を設立し、専業で花き生産を開始しました。設立当時は、シクラメンやシュウメイギクを生産していましたが、中山間地域の冷涼な気候に適した品目として、鉢花・苗物としての出荷が珍しく、高値が期待される南米ペルー原産のアルストロメリアに注目し、その生理生態を研究することで、特に、夏季のかん水量の調節を行い「親株の夏越し技術」を習得し、生存率を向上できる完全自給親株生産体制を確立しました。さらに、種苗費の節減を図るために、育種に積極的に取り組み、現在、生産している３５品種すべてをオリジナル品種としています。
　一方、花き生産に当たっては、ローラーベンチやポッティングマシンの導入、トラクターバケットによる培土づくり、ベンチカーなどの利用による労働軽減を図っています。また、暖房燃料の切り替えによるCO_2排出量の削減、鉢残土の露地作物への再利用など、環境保全にも配慮しています。
　このように、中山間地域という地理的条件を活かし、オリジナル品種の育成による差別化で高い所得率を確保していることが評価されました。

　福岡県宮若市の安田克徳、節子夫妻は、就農してから共に３０年以上に及びますが、その間、露地ギク生産をベースに切枝花木類、特にサカキ、シキミ、花モモ、サクラ、ウメ、マツなどの栽培を行ってきました。平成１１年に、経営目標と役割分担を明確にするため、克徳氏は認定農業者となり家族経営協定

を締結しました。さらに、経営効率を高めるため、平成１５年に花木・枝物専作農家としては、県内初の有限会社「安田花卉」を設立しました。

花木・枝物は同じ品目でも用途によって求められる形質・形状が異なる事が多いことから、仕立て方法や栽植間隔を変えながらニーズに応えています。また、生産面では、気象データに基づく収穫時期や出荷時期の調整、ヒートポンプを活用した出荷期間の拡大、独自の鮮度保持技術の開発などで安定生産と品質の向上を図るなど、高い技術水準を有していることが分かります。

さらに､花材の魅力を最大限に生かす商品作りをベースに、多様な品目を栽培することで実需者ニーズに対応するなど、市場･実需者の評価は高く、安定した経営を実現し、県内のモデルとなっていることが評価されました。

長崎県大村市の山口政則、和代夫妻は、イチゴ栽培農家として農業に従事していましたが、地域で古くから県外出荷を行っているカーネーションに着目し、雇用を活用した大規模経営を目指し平成８年からカーネーション栽培を開始しました。この時、４戸の生産農家で農業生産法人「フラワーウェイおおむら」を立ち上げ鉄骨ハウスを導入するとともに、共同選花場を設置しました。

現在、夫妻は、鉄骨ハウス４０ａ、パイプハウス３０ａでカーネーションの大規模経営を行っています。家族経営協定を締結して、働きやすい環境作りと役割分担を明確化し、経営者の妻は雇用管理を、後継者は直売所と補完品目を担当して経営参画しています。

栽培面においては、自動温度管理システム、自動カーテン、養液土耕システムなどを利用した労力軽減と開花調節、二重カーテン、４段サーモ、循環扇の設置による燃料費の低減、環境保全においては、防虫ネット、土壌分析を基礎にした土づくりなどで高品質花きの生産に取り組んでいます。

このように、夫妻は、花き生産におけるブランド産地の育成のみならず地域農業の総合的な発展のためにリーダーシップを発揮していることが評価されました。

財団法人日本花普及センター会長賞に選ばれました次の経営体は、以下に述べる点で評価され本賞に値すると判断されました。

愛知県豊橋市の伊藤正規氏は、露地野菜農家の後継者として昭和５４年に就農しましたが、昭和５８年から洋らんの将来性を見込んでシンビジウム栽培を始めました。平成７年からは洋らん専作農家として、シンビジウム、コチョウラン、ミルトニアなどの鉢物を生産しています。

氏の鉢物生産において、複合環境制御システム導入により、複数の栽培品目について同時に最適な栽培環境を整え高品質生産が可能になったこと、育苗の外部委託により、栽培期間を短縮し施設利用率の向上ができたこと、また、育苗に費やしていた労力を商品開発や出荷調整作業等に向けることで高付加価値生産を行うことが可能になったことなどが評価されました。

日本経済の減退もおさまり、ようやく回復の兆しが見えてきたとは言え、農業を取り巻く環境はまだまだ厳しい状況にあります。さらに、近年の天候が安定しない中、今年の審査でも生産額、収益を着実に伸ばしている経営体の推薦が多数あったことには心強く感じました。そのような経営体では、生産効率を高めるとともに、省力化や経費節減による生産コストの低減、施設等の有効利用による環境負荷の低減に努める一方、消費者ニーズに合う品目・品種の選択、あるいはオリジナル品種の育成、さらに新しい需要の開拓にも力を注いでおり、その努力には頭が下がる思いがしました。

受賞者の皆様には心からお祝いを申し上げますとともに、わが国の花き産業の発展のため、今後とも一層のご尽力を下さるようにお願いし、審査講評といたします。

平成 23 年 3 月 16 日
審査委員長
腰　岡　　政　二

第２０回花の国づくり共励会
花き技術・経営コンクール受賞者一覧表

【農林水産大臣賞】

◎有限会社横川花園
（代表取締役　横　川　保　次）
〒366-0814　埼玉県深谷市大谷４７６－１

【農林水産省生産局長賞】

◎河　合　　修
〒501-4202　岐阜県郡上市八幡町市島１５４５

◎安　田　克　徳
安　田　節　子
〒822-0123　福岡県宮若市三ヶ畑１７１８

◎山　口　政　則
山　口　和　代
〒859--3803　長崎県大村市今富町５２５

【財団法人日本花普及センター会長賞】

◎伊　藤　正　規
〒441-3201　愛知県豊橋市東七根町字松端１７８番地の３

農林水産大臣賞　有限会社横川花園

経営スタッフ（横川保次　横川久美子　横川琢也）

ユリの鉢物

チューリップの鉢物

【農林水産大臣賞】

有限会社横川花園　代表取締役　横川保次（埼玉県）
鉢物（ユリ、チューリップ、ギボウシ等）

横川保次氏は、商業高校を卒業後、農業とは異なる民間企業の業務を経験した。その後、花きに関心を持つようになり、東京都内でフラワーショップの経営を開始した。経営を通して花きに対する消費者ニーズを捉え、それに応えるための商品企画の重要性を学び、この経験から自ら花きを生産し、それを商品企画することにより新たな花きのマーケット開拓の可能性を感じ取り、３１歳の時に就農した。

氏の父親は、球根切り花の一大産地である深谷市で切り花生産を行っていたが、氏はこれまでの経験を生かした独自の経営を目指して２，０００㎡のハウスを新設し、スイートピー、ケイトウ、ラベンダー等の鉢物生産を開始した。

その後、施設の拡充、新品目の導入を経て、（有）横川花園を設立した。現在では温風暖房機、細霧冷房装置などの設備を備えた鉄骨ハウスの活用、球根の開花をコントロールするための冷蔵庫の導入及び１２人の従業員の常時雇用によりユリ、チューリップなどの球根鉢物を中心とした経営を確立している。

氏の経営の特徴は、主力のユリの鉢物について、オランダ国際球根協会に入会し、定期的にオランダへの現地視察を行い、鉢物向き品種の情報収集に力を入れている。また、自社の冷蔵庫の活用は、為替の変動リスクを回避し、安定的な球根の購入を可能にして経営の安定化に繋がっている。更に、球根の冷蔵処理、温室の温度管理、日長処理を駆使し、良品生産と周年出荷を可能にしたことで全国の市場から高い信頼を得ている。

また、深谷市は老舗のチューリップ切り花産地であることから、JA に品種、栽培方法などの情報及び促成栽培のための冷蔵庫などの施設が充実しており、これらの施設や情報を有効に活用し、チューリップの鉢物を経営の中でユリの鉢物に次ぐ主力商品に育て上げ、草丈のコントロール技術として新しい研究成果である DIF を導入して成果を挙げている。

更に、ギボウシをユリの鉢の間に置いて、ベンチの有効利用を行い、経営の中に新たな商品として位置付けている。

雇用面では、年間を通した常雇用、傷害保険の加入、休憩室の整備等の勤務条件を充実し、質の高い労働力の確保に努めている。労働軽減の工夫としては、いち早くアルミ台車を導入したほか、ハウスや出荷所に作業機が入るようにして、フオーークリフトでの移動を可能にするなど、労力を軽減している。また、

自動消毒機や自動潅水設備を導入し、労働軽減を図っている。

環境保全についての取り組みは、冬季に好光性植物（ユリ）の間に嫌光性植物（ギボウシ）を置くことにより、加温コストを下げベンチの有効活用を図っているほか、出荷ピーク時に効率よくハウスが回転できるよう植込みを農閑期に集中して行い、出荷後直ぐ空きハウスに鉢が並べられるようにしている。これによりチューリップは１１月～３月の栽培期間に３回転､ユリは年間を通して７回転できるようにしている。また、ユリ・チューリップでは、エコファーマーの認定を受け、安全・安心な花きの生産に取り組んでいる。

以上のように切り花として栽培されているユリ、チューリップを鉢物として商品化し、成功を収めているが、これらの球根の生産は、オランダの寡占状態にあるため、球根導入に当たっては、生産地の状況や為替の変動など多岐にわたる情報を収集し、安定した購入ルートを構築している。また、栽培に当たり新技術の導入や施設の有効利用により安定した生産体制を整備し、全国の市場から高い評価と信頼を得ている。

今後、無土壌培地の活用による球根鉢物の輸出を目指すなど斬新な経営を展開し、地域の鉢物生産者の手本となっている。また、「ＪＡふかや鉢物研究会」においても牽引役として活躍し、地域の施設鉢物の生産振興・後継者育成にも尽力している。

更に、知的障害者授産施設への商品の提供、キッズガーデニング教室を通した「花育活動」の援助など積極的な社会貢献を行っている。

氏の次男は、オランダの球根輸出会社で実務を経験した後に就農したことから、有限会社横川花園は、地域に経営基盤を築き、国内に止まらず海外展開も視野に入れて更に大きく発展する可能性を有する経営体である。

【農林水産省生産局長賞】

河合　　修（岐阜県）
切り花（アルストロメリア）

河合　修氏は、東京都立高校畜産科卒業後、都内で家業の酪農に５年間従事し、２４歳より独立して鉢物花き生産を始めた。３０歳の結婚を機に、妻の実家である岐阜県郡上市八幡町にて「河合園芸」を設立し、専業で花き生産を開始した。また、地域の若い鉢物花き生産者仲間とグループを作り、情報交換や

先進地視察等の活動を通して技術の習得・向上を図ってきた。

約３０年前に花き栽培をスタートした時は、当時、花き生産仲間が栽培しているシクラメン、秋明菊等を生産していたが、中山間地域で規模拡大が出来ない中で、中山間地域の冷涼な気候に適した品目であり、鉢花・苗物としての出荷が珍しく、高値が期待されるアルストロメリアに注目した。アルストロメリアは、周年作業ではあるが、大きな労働ピークがないこと等から将来性を考えてこれに切り替えた。

アルストロメリアは「インカのユリ」と言われ南米ペルーの原産であることから、原産地気候を研究して、夏季のかん水量の調節を行い「親株の夏越し技術」を習得し、生存率を向上させて完全自給親株生産体制を確立した。

アルストロメリアの親株を種苗会社から購入して１５万鉢の生産をした場合、約７５０万円の種苗費がかかることから育種に積極的に取り組み、現在、生産している３５品種すべてをオリジナル品種とし、種苗費の節減を図っている。

農場は、標高３００ｍの中山間地域にあり、冬期はマイナス温度が続く寒冷地で高温管理は困難であることから、アルストロメリアの適正最低保持温度が５℃であったのを、植物を馴化させ２℃まで下げて暖房コストの削減を図っている。

また、二重張りビニールカーテンの設置や、日中午後早期に側幕、天窓を閉鎖し保温効果を高めている。

労働軽減については、ポッティングマシンの導入等により作業の効率化を図っているほか、トラクターバケットによる培土づくり、ベンチカーの利用による花き移動作業の省力化を図っている。

環境保全については、暖房燃料を重油から灯油に切り替えたことによって、地球環境を守るにＣＯ$_2$の排出量の削減を図るともに、ボイラー購入価格を約３分の１以下に抑え、メンテナンス管理のコスト削減を図っているほか、株分け時に出る残土については、軽トラダンプで畑に客土し、露地園芸作物の栽培に活用している。

以上のように、近年の花き価格が低迷するなか、中山間地域という地理条件を活かし、変化する花き需要、経営環境に柔軟に対応し、決して大きくない経営規模でありながら、鉢物花き園芸では極めて高い約５０％の所得率を確保していることは、中小規模鉢花生産者の見本である。

また、大規模生産者に対抗し、市場でのセリ前取引比率を高め、注文販売を多く確保するため、オリジナル品種の育成による差別化や、実需者との連携強化に努めている。

更に、雇用確保が困難な地域事情の中、家族経営で無理のない作業体系を構築していることや、冬季は積雪、低温の厳しい地域であるが、最低限の加温で栽培可能な品目選定をするなど研究熱心であるとともに、経営者としての資質に優れている。

氏の人柄は、多くの方々が認めるところであり、地域づくりのリーダーとして尽力されているとともに、今後の活躍も大いに期待されている。また、岐阜花き流通センター農協の役員を長年にわたり務め、県の花き生産振興にも大いに尽力している。

【農林水産省生産局長賞】

安田克徳・安田節子（福岡県）
花木・枝物類（サカキ、花桃、ニュウサイラン、しめ縄、門松、松竹梅等）

安田克徳氏は、昭和 50 年に就農し、父から山林を含め経営面積 677a を引き継ぎ、価格の安定していた加工用タケノコを柱に水稲、山採り花木・枝物類経営を手伝っていた。そして、将来は就農前から季節感を演出する「彩どり花木」を専業として自立することを目標とした。昭和 54 年に節子氏と結婚をしたが、輸入タケノコによる市況低迷の影響を受け始めたことから、将来展望が望めないと考えた克徳氏と節子氏は話し合いを行って、タケノコに代わる品目として夏の冷涼な気象条件を生かした花色の鮮明なキク導入による経営改善に取り組んだ。当初は 5a の試作導入から始まり、昭和６０年のピーク時には３０a まで拡大した。

キクを導入した当時は、栽培技術が未熟であったことから、他のキク生産者等から種苗調達や技術習得を行った。そして、徐々に立地条件に適した品種選定や栽培技術の確立と経営安定を図った。キク生産は花木類の増産により、労働力不足が課題となってきた平成１０年頃まで行った。

将来の経営目標を実現するため、露地ギク生産で得た収益で農地等の取得を行い、毎年、新たなほ場に花木類の苗を植付け成園化を図った。農地等は昭和６２年に（３０a）、平成元年(３３a)、平成１４年（３０a）、平成１９年(３７０a)と購入拡大し、これによって花木・枝物の生産の基盤強化を図った。栽培品目はサカキ、シキミ、花桃、桜、梅、若松等数多く植栽を行った。

経営面では、夫婦間で話し合いを行い、平成１０年頃から雇用による労働力

を確保し、生産性向上と安定供給体制に備えた。更に、経営目標と役割分担を明確にするため、克徳氏は平成１１年に認定農業者となり家族経営協定を締結した。

その後、今後の経営発展と生活面と農業生産面とを区分し、経営効率を高めるため、平成１５年に花木・枝物専作農家としては、県内初の有限会社安田花卉を設立した。法人設立に当たっては、夫婦で諸手続きを独学で学び、約半年で法人登記をした。その後は税理士と顧問契約を結び、税務管理や簿記記帳等経営ノウハウを自己学習した。法人設立後は、臨時雇用による労働力確保を行っていたが、臨時雇用者の中から、平成２０年、２１年にそれぞれ１名を社員として採用し現在に至っている。

栽培技術面では、花木・枝物は同じ品目でも用途によって求められる形質・形状が異なる事が多いことから、特にサカキについては、神棚供物用から玉串、神事用等規格の違いから、用途別の大きさに合わせた生産ができるように仕立て方法や栽植間隔を変えながらニーズに応えている。

また、桜、花桃、梅の開花は、植物体への低温遭遇時間と休眠打破（開花時期）に対して相関関係があるので、物日前までに出荷を行うためハウスへの入室加温開始時期を過去の出荷実績や気象データ（特に最低気温）を分析しながら収穫時期を決定している。

このほか、花加工品の鮮度保持技術導入等による安定生産、ハウス導入による「桜」の促成栽培と出荷期拡大、鮮度保持剤の利用による花桃の品質向上等に努めている。

安田花卉の品目数は、花木生産者の中では群を抜いて多く、過去３カ年間では花加工品を含めると累計７７品目にのぼり、規格を加えると１２０を超える商品数を揃えている。中でも特徴的な品目としては、「竹」は長さ８ｃｍ～６ｍ、「笹」については１～５ｍまでの多様な要望に応える県内唯一の生産者であり、県外からも受注するなど極めてオリジナル性に富んでおり注目を浴びている。このように品目数や生産規模は県内でも類がなく、市場や実需者からも評価が高い。

数多くの商品アイテムを揃えた背景は、節子氏が生け花教室の講師として得た経験により花材の魅力を最大限生かす商品作りがベースとなっており、「安田ブランド」を高める基盤となっている。

このような販売戦略や経営方針に関心を寄せる生産者も多く、県内外から多くの視察者を受け入れている。

経営面では、法人化による生活と農業の分離、雇用と就業環境の整備、経営管理の効率化等に努めている。

以上のように、安田氏は、花木･枝物専作農家としては県内で初めて法人を設立し、県内のモデルとなっている。 18 歳での就農以来､計画的に農地の取得と花木苗の植付けを行いながら､雇用を活用した規模拡大による生産基盤の強化を図ってきた。生産面では、気象データに基づく出荷時期の調整や、ヒートポンプを活用した出荷期間の拡大、独自の鮮度保持技術の開発など安定生産と品質の向上を図っており技術水準は高い。

また､花材の魅力を最大限に生かす商品作りをベースに、多様な品目を栽培することで実需者ニーズに対応するなど、市場･実需者の評価は高く、安定した経営を実現している。

【農林水産省生産局長賞】

山口政則・山口和代（長崎県）
切り花（カーネーション）

山口政則氏は、昭和５１年に就農し、１０ａのパイプハウスでイチゴ栽培を開始、以後面積拡大し４０ａとなったが、家族経営でのイチゴ栽培に限界を感じ地域で昔から県外出荷を行っているカーネーションに着目し、雇用を活用した大規模経営を目指し平成８年からカーネーション栽培を開始した。

カーネーション栽培を始めるに当たっては、４戸で農業生産法人フラワーウェイおおむらを立ち上げ鉄骨ハウスを導入するとともに、共同選花場もでき、随時ハウスの増設を行った。最近では、栽培全面積対応の移動式自動防除機の導入も検討しており積極的に省力化を進めている。

現在、県平均の経営規模は５０ａであるのに対し、氏は７０ａ（鉄骨ハウス４０ａ、パイプハウス３０ａ）と大規模経営を行っている。

また、家族経営協定を締結して、後継者の働きやすい環境作り、効率的に作業が行われるよう家族内での役割分担を明確化し、経営者の妻は雇用管理を、後継者は直売所と補完品目を担当して経営参画意識を持たせている。

カーネーション栽培で特に工夫している点としては、反射マルチの導入、パイプハウスにおける白寒冷紗（防虫ネット）の導入、頭上かん水の導入、種苗・生産資材を一括購入しているほか、全ハウスに二重カーテン、４段サーモ、循環扇を設置し燃料費を４０％低減している。

出荷・販売面での工夫としては、氏が部会長を務める大村カーネーション部

会は、消費者ニーズを把握するため、北九州などの消費地へ赴き、市場関係者、仲卸等と連携し、量販店において消費拡大のための産地ＰＲを行っている。

また、年に１回は、主な取引市場である東京、京都に赴き消費拡大を目指し、企画部や商品開発部など市場の各部門担当者や仲卸などと実需者連携会議を実施している。

更に、カーネーションの出荷が始まる１０月と、母の日の出荷ピークを迎える前の３月の年２回、取引市場を招き販売対策会議を行うことで、予約相対取引の割合を増やしている。

カーネーションは、品種数が多く、嗜好品であるため毎年の品種の変化が早い。氏も約２０品種を栽培しており、更に毎年新品種を導入し更新を行っている。そこで、大村カーネーション部会で種苗メーカー、市場と連携して、新品種展示圃を設置し栽培特性・消費者ニーズの把握に努めている。

輸送コストについては、県内のカーネーション及びキクの生産組織が輸送コスト低減を目的に輸送協議会を組織し、輸送運賃について入札制度を確立した。この結果、東京出荷の場合１本当たり１円のコスト削減となった。

労働の軽減については、自動温度管理システム、自動カーテン、養液土耕システム等のほか、平成１０年に共同選花場が整備され品質の向上、統一化ができ、市場の要望に迅速に対応することができている。

環境保全の面では、全施設に防虫ネット・黄色蛍光灯を導入したことで、防除回数を約５割低減し、更に、施設全面積において養液土耕を導入した適正施肥により施肥量は２割程度の低減となっている。

土づくりについては、良質の牛糞堆肥を利用している。加えて、有機質資材は、ピートモス、ヤシガラなどを投入。土作りにはこだわっており、毎年、カーネーションの改植前と生育途中の２回土壌分析を依頼し、結果に応じた対策を行っている。

氏は、環境に対する意識が高く、水稲では平成 14 年にエコファーマーを取得している。更に、消費者による安全・安心な農作物供給への意識が高まるなか、花きについても同様に求められることを予想し、大村カーネーション部会全員は、これまで以上に環境に優しい花づくりを目指し平成１９年度にエコファーマーとなった。

このことにより、取引市場においては、環境負荷への軽減と高品質生産で新たな産地イメージをつくるとともに、輸入花きとの差別化を図っている。

地域社会活動では、県農林技術センターや地域振興局、県カーネーション部会が協力してオリジナル品種の育成を行っており、現地試作等積極的に協力しているほか、県央地域花き生産者連絡協議会長を務めており、生産者の技術向

上や連携強化に寄与している。
　また、平成８年に今富受委託組合（共同機械利用組合）を立ち上げ、８年間組合長を歴任、平成２２年４月からは、地堂実行組合長として地域の農業振興にも寄与している。
　以上のように、氏は、花き生産におけるブランド産地の育成のみならず地域農業の総合的な発展のためにリーダーシップを発揮している。

【財団法人日本花普及センター会長賞】

伊藤正規（愛知県）
鉢物洋らん類（シンビジウム、コチョウラン、ミルトニア）

　伊藤正規氏は、露地野菜農家の後継者として昭和５４年に就農したが、近隣にあった洋らん生産を見聞きし、洋らんの将来性を見込んでシンビジウム栽培を始めた。
　近隣の洋らん生産者に学びながら規模拡大し、後継者の就農を契機にシンビジウムにコチョウランとミルトニアを組み合わせ経営安定と労働平準化を図った。
　氏の経営の特徴は、①複合環境制御システム導入により、複数の栽培品目について同時に最適な栽培環境を整え高品質生産が可能になったこと、②育苗の外部委託により、栽培期間を短縮し施設利用率の向上ができ、また、育苗に費やしていた労力を商品開発や出荷調整作業等に向けることで高付加価値生産を行うことが可能になったことである。
　即ち、複合環境制御システムの導入により、シンビジウム、コチョウラン、ミルトニア各品目で温度、湿度、日照、かん水管理について最適な条件を整えることで、栽培品目すべてにおいて高品質生産を行っている。
　更に、経験と複合環境制御システムのデータを照合することで、各品目の開花調節が可能となり、それによって出荷期間の拡大による販路拡大と取引先との信頼関係の構築、有利販売が可能となっている。
　また、生育調節、開花調節が可能になったことで、作業計画及び出荷計画が立てやすく、年間通じて労働の平準化ができ、雇用労力の確保及び有効活用につながっている。
　なお、複合環境制御装置は、インターネットにより遠隔地からも制御状況が確

認でき、気象条件等の急な環境変化にも対応でき、最適な栽培管理条件を整えることができている。

種苗の確保については、コチョウランが育苗期に花芽分化を抑制するために、25℃以上の高温管理が必要となっている。これ対して、台湾産の大苗を導入することで、育苗管理作業を省き、暖房に係わる投入エネルギーを大幅に省くことを可能にしている

新たな商品開発を行うためには、市場における商談会や都市部小売店に自らが出向き店頭での情報収集を行う等、常に積極的に情報収集・商品開発に努めている。このような外出時でも、インターネットを利用して施設内の状態を確認できるため、安心して情報収集、商品開発及び営業活動ができるようになった。

更に、複合環境制御設備を利用することで栽培管理作業の合理化、省力化ができ、そこに費やしていた労働力を出荷・調整作業に活用することができる。その結果、シンビジウムのアーチ型仕立て、コチョウラン並びにミルトニアの寄せ植え・支柱立て等手間のかかる作業を丁寧に行うことができ高付加価値商品を提供している。

省エネ対策としては、洋らんの中でも、コチョウラン、ミルトニア等は高温性のランであるが、高品質生産を行うためには、適温（２０～２５℃）管理が重要であり、重油高騰による経費増加がまぬがれない。そこで、高効率暖房機を導入し、更にヒートポンプも導入する計画で、環境保全も考慮した省エネルギー並びに経費節減を積極的に行っている。

地域においては、雇用の創出として失業者やシルバー人材センターからの雇用を受け入れており、花育活動にも積極的で、中学生や高校生の作業体験の受け入れや一般向けの園芸教室を行う等、子供から大人まで花に親しむ機会づくりを積極的に行い、花の魅力を伝える役割を担っている。

以上のように、氏の洋らん生産の技術・経営は、先駆的であり、地域の模範となるものである。

花の国づくり共励会花き技術・経営コンクール受賞者一覧

回(年度)	受賞区分	都道府県	受賞者名	生産品目	備　考
20回(22年度)	農林水産大臣賞	埼玉	有限会社横川花園 (代表者)横川　保次	ユリ、チューリップ、ギボウシ 等(鉢物)	
20回(22年度)	生産局長賞	岐阜	河合　修	アルストロメリア(切り花)	
20回(22年度)	生産局長賞	福岡	安田　克徳 安田　節子	サカキ、花桃、ニュウサイラン 等(花木・枝物)	
20回(22年度)	生産局長賞	長崎	山口　政則 山口　和代	カーネーション(切り花)	
20回(22年度)	財団法人日本花普及センター会長賞	愛知	伊藤　正規	シンピジウム、コチョウラン、ミルトニア(鉢物)	
19回(21年度)	農林水産大臣賞	埼玉	塩原　茂夫	アジサイ、ポインセチア(鉢物)	
19回(21年度)	農林水産大臣賞	大分	有限会社お花屋さんぶんご清川 (代表者)小久保恭一	リンギク(切り花)	第49回農林水産祭 天皇杯受賞
19回(21年度)	生産局長賞	宮城	石巻農業協同組 合 花卉部会ガーベラ班	ガーベラ(切り花)	
19回(21年度)	生産局長賞	愛知	櫛田 倉司	リンギク(切り花)	
19回(21年度)	生産局長賞	大阪	梶本 定敏	ユリ、アイリス等(球根切り花)	
18回(20年度)	農林水産大臣賞	愛知	小松　英雄	アンスリーム(鉢物)	
18回(20年度)	農林水産大臣賞	福岡	浜野　重登 浜野　明美	バラ(切り花)	
18回(20年度)	生産局長賞	埼玉	安藤　　貢	アガパンサス等(苗物)	
18回(20年度)	生産局長賞	岐阜	有限会社サンコフ	セントポーリア等(鉢物)	
18回(20年度)	生産局長賞	大阪	稲治　義彦	シャクヤク等(露地花き)	
18回(20年度)	生産局長賞	長崎	柴田　定實 柴田　富子	キク(切り花)	
18回(20年度)	財団法人日本花普及センター会長賞	佐賀	石井　克明	バラ(切り花)	
17回(19年度)	農林水産大臣賞	埼玉	黒臼　秀之	コチョウラン(鉢物)	
17回(19年度)	農林水産大臣賞	岐阜	吉田　正博	ガーベラ等(鉢物)	
17回(19年度)	生産局長賞	千葉	平野　圭祐	アンスリウム(切り花)	
17回(19年度)	生産局長賞	神奈川	加藤　　悟	シンピジウム(鉢物)	
17回(19年度)	生産局長賞	愛知	平野　和美 平野　照美	ポインセチア等(鉢物)	
17回(19年度)	財団法人日本花普及センター会長賞	佐賀	石橋　正基	カーネーション(切り花)	
16回(18年度)	農林水産大臣賞	千葉	丸朝園芸農業協同組合花卉部 (部長)飯高　重雄	サンダーソニア等(切り花)	
16回(18年度)	農林水産大臣賞	福岡	空閑　善実 空閑　桂子	パンジー等(苗物)	
16回(18年度)	生産局長賞	鹿児島	サンライズグリーンヒル観葉生産組合 (代表者)福留　健一	オーガスタ等(観葉植物)	
16回(18年度)	生産局長賞	愛知	伊藤　勝久	シクラメン等(鉢物)	
16回(18年度)	生産局長賞	長崎	立石　俊一	バラ(切り花)	
16回(18年度)	財団法人日本花普及センター会長賞	岩手	澤瀬　一男 澤瀬ロシタ	コギク等(切り花)	
16回(18年度)	財団法人日本花普及センター会長賞	大阪	樋口　喜善	パンジー等(苗物)	
16回(18年度)	財団法人日本花普及センター会長賞	佐賀	真子　徳幸	キク(切り花)	
15回(17年度)	農林水産大臣賞	埼玉	田島　　嶽	ガーデンシクラメン(苗物)	
15回(17年度)	生産局長賞	群馬	小倉　文雄	シクラメン等(鉢物)	
15回(17年度)	生産局長賞	愛知	内藤　完次	バラ(切り花)	
15回(17年度)	生産局長賞	長崎	JA壱岐市花き部会 (代表者)下條利一	コギク等(切り花)	
15回(17年度)	財団法人日本花普及センター会長賞	岐阜	高木　兼雄	スパティヒィラム(鉢物)	
15回(17年度)	財団法人日本花普及センター会長賞	沖縄	玉城　昌伸	キク(切り花)	
15回(17年度)	財団法人日本花普及センター会長賞	沖縄	蔵下　良彦	キク(切り花)	

回(年度)	受賞区分	都道府県	受賞者名	生産品目	備　考
14回(16年度)	農林水産大臣賞	東京	八丈島農業振興青年研究会 鉢物部会 (代表者)大沢猛邦	フェニックス等(鉢物)	
14回(16年度)	農林水産大臣賞	岐阜	有限会社西垣園芸 (代表者)西垣　正俊	オステオスペルマム(苗物)	
14回(16年度)	生産局長賞	宮城	有限会社ニーローズなんごう (代表者)楢山 恒雄	バラ(切り花)	
14回(16年度)	生産局長賞	愛知	有限会社H&プランテーション 鵜飼　敏之 鵜飼　　浩	パンジー等(苗物)	
14回(16年度)	生産局長賞	福岡	高橋　三千年 高橋　節子	バラ(切り花)	
14回(16年度)	生産局長賞	鹿児島	小村　幸一	パキラ等(観葉植物)	
14回(16年度)	財団法人日本花普及センター会長賞	大阪	神藤　正和	ハボタン等(苗物)	
14回(16年度)	財団法人日本花普及センター会長賞	大阪	谷嵜　隆雄	ハナモモ等(切り枝花木)	
14回(16年度)	財団法人日本花普及センター会長賞	徳島	尾崎　進一郎	シンピジウム(鉢物)	
14回(16年度)	財団法人日本花普及センター会長賞	佐賀	松永　宏隆	ユリ(切り花)	
14回(16年度)	財団法人日本花普及センター会長賞	長崎	JA東長崎菊部会 (代表者)松尾 修一	キク(切り花)	
13回(15年度)	農林水産大臣賞	徳島	有限会社岸本農園 岸本　　昇 岸本ときこ	ハイビスカス等(鉢物)	
13回(15年度)	農林水産大臣賞	鹿児島	有限会社南原農園 南原　武博	ジャスミン等(切り花)	
13回(15年度)	生産局長賞	岐阜	有限会社白木園芸 白木　和彦 白木ふさ子	レッドロビン等(洋蘭・観葉植物)	
13回(15年度)	生産局長賞	佐賀	宮崎　憲治	スイトピー等(切り花)	
13回(15年度)	財団法人日本花普及センター会長賞	岐阜	JAひだ花卉出荷組合 益田支部 (代表者)中川　剛	キク等(切り花9	
13回(15年度)	財団法人日本花普及センター会長賞	愛知	山田　則明	カーネーション等(切り花)	
13回(15年度)	財団法人日本花普及センター会長賞	福岡	緒方　久幸	ガーベラ(切り花)く	
13回(15年度)	財団法人日本花普及センター会長賞	長崎	西海菊出荷組合 (代表者)川内 通良	キク(切り花)	
12回(14年度)	農林水産大臣賞	愛知	石井　義明	アルストロメリア(切り花)	第42回農林水産祭 内閣総理大臣賞受賞
12回(14年度)	生産局長賞	埼玉	成澤　勝司	マリーゴールド(苗物)	
12回(14年度)	生産局長賞	鹿児島	柴嵜　喜好	アイビー等(切り花)	
12回(14年度)	財団法人日本花普及センター会長賞	岩手	石川　正樹 石川　結花	ユリ(切り花)	
12回(14年度)	財団法人日本花普及センター会長賞	岐阜	川端　芳彦 川端　葉子	ユリ等(切り花)	
12回(14年度)	財団法人日本花普及センター会長賞	香川	稲田　良弘	コチョウラン(鉢物)	
12回(14年度)	財団法人日本花普及センター会長賞	香川	小西　幸彦	マツ(盆栽)	
12回(14年度)	財団法人日本花普及センター会長賞	佐賀	徳永　健史	コチョウラン(切り花・鉢物)	
11回(13年度)	農林水産大臣賞	埼玉	小林　滋幸	カランコエ((鉢物)	
11回(13年度)	農林水産大臣賞	長崎	JA北高電照菊研究会 (代表者)大谷 虎次	キク(切り花)	
11回(13年度)	生産局長賞	埼玉	田中　　勲	シクラメン等(鉢物)	
11回(13年度)	生産局長賞	岐阜	河野　鉄博 河野　常子	ラナンキュラス等(切り花)	
11回(13年度)	生産局長賞	愛知	林　　富造 林　　房子	シンピジウム(鉢物)	
11回(13年度)	生産局長賞	佐賀	菖蒲　正行	トルコギキョウ等(切り花)	
11回(13年度)	財団法人日本花普及センター会長賞	奈良	中辻　栄治	キク(切り花)	
11回(13年度)	財団法人日本花普及センター会長賞	広島	石田　律恵	レースフラワー等(切り花)	
11回(13年度)	財団法人日本花普及センター会長賞	徳島	阿部　雅志	シンピジウム(鉢物)	
11回(13年度)	財団法人日本花普及センター会長賞	香川	森　　崇	バラ(切り花)	
11回(13年度)	財団法人日本花普及センター会長賞	福岡	高杢　義邦	ユリ等(切り花)	

回(年度)	受賞区分	都道府県	受賞者名	生産品目	備　考
10回(12年度)	農林水産大臣賞	岐阜	大西　　隆	ミニバラ(鉢物)	第40回農林水産祭 天皇杯受賞
10回(12年度)	農林水産大臣賞	鹿児島	沖永良部花き流通センター (代表者)泉　貞吉	テッポユリ等(切り花)	
10回(12年度)	生産局長賞	群馬	林　　康夫	シクラメン等(鉢物)	
10回(12年度)	生産局長賞	香川	農事組合法人香花園 (代表者)保坂重雄	カーネーション(切り花)	
10回(12年度)	生産局長賞	大分	有限メルヘンローズ (代表者)小畑和敏	バラ(切り花)	
10回(12年度)	生産局長賞	沖縄	玉城　哲弘	キク(切り花)	
10回(12年度)	(財)日本花普及センター会長賞	岩手	谷藤　幸子	リンドウ等(切り花)	
10回(12年度)	(財)日本花普及センター会長賞	山梨	農事組合法人 白根フラワーコーポラティブ	インパチェンス等(鉢物)	
10回(12年度)	財団法人日本花普及センター会長賞	愛知	伊奈　義就	キク(切り花)	
10回(12年度)	財団法人日本花普及センター会長賞	徳島	宮脇　　孝	キク(切り花)	
10回(12年度)	財団法人日本花普及センター会長賞	香川	藤本　傳夫	キク(切り花)	
10回(12年度)	財団法人日本花普及センター会長賞	福岡	中園　英治	キク(切り花)	
10回(12年度)	財団法人日本花普及センター会長賞	長崎	江頭　富春	カーネーション等(切り花)	
10回(12年度)	財団法人日本花普及センター会長賞	鹿児島	富田　良成	バラ(切り花)	
9回(11年度)	農林水産大臣賞	埼　玉	奥富　良雄	チューリップ等(苗物)	
9回(11年度)	農林水産大臣賞	愛　知	角田　隆幸	ハボタン等(苗物)	第39回農林水産祭 内閣総理大臣賞受賞
9回(11年度)	農産園芸局長賞	宮　城	宮城県南三陸農業協同組合 花き部会	キク(切り花)	
9回(11年度)	農産園芸局長賞	山　梨	渡辺　喜市	サンダーソニア等(切り花)	
9回(11年度)	農産園芸局長賞	滋　賀	小杉　長男	シクラメン等(鉢物)	
9回(11年度)	農産園芸局長賞	沖　縄	大城　清利	キク(切り花)	
9回(11年度)	財団法人日本花普及センター会長賞	岩　手	菅原　武男	リンドウ(切り花)	
9回(11年度)	財団法人日本花普及センター会長賞	栃　木	田代　正行	カーネーション(切り花)	
9回(11年度)	財団法人日本花普及センター会長賞	埼　玉	木村　　実	バラ(切り花)	
9回(11年度)	財団法人日本花普及センター会長賞	長　野	中村　元夫	ディフィニウム等(切り花)	
9回(11年度)	財団法人日本花普及センター会長賞	奈　良	吉川　公彦	キク等(花苗)	
9回(11年度)	財団法人日本花普及センター会長賞	徳　島	朝海　常祐	キク(切り花)	
9回(11年度)	財団法人日本花普及センター会長賞	福　岡	高尾　保徳	ゴールドクレスト等(花木)	
9回(11年度)	財団法人日本花普及センター会長賞	長　崎	小嶺　敏博	コウチョウラン等(鉢物)	
8回(10年度)	農林水産大臣賞	岐　阜	間宮　敏昭	ハイビスカス等(鉢物)	
8回(10年度)	農林水産大臣賞	福　岡	井上　茂之	トルコギキョウ等(切り花)	
8回(10年度)	農産園芸局長賞	埼　玉	戸谷　武雄	シュッコンアスター(切り花)	
8回(10年度)	農産園芸局長賞	静　岡	服部　一夫	クルクマ等(鉢物)	
8回(10年度)	農産園芸局長賞	京　都	清水　幸雄	ケンガイキク(鉢物)	
8回(10年度)	農産園芸局長賞	長　崎	鹿山　雅勝	カーネーション等(切り花)	
8回(10年度)	財団法人日本花普及センター会長賞	新　潟	渡邉　和芳	ユリ(切り花)	
8回(10年度)	財団法人日本花普及センター会長賞	三　重	松尾　廣文	シクラメン等(鉢物)	
8回(10年度)	財団法人日本花普及センター会長賞	奈　良	吉本　利郎	バラ(切り花)	
7回(9年度)	農林水産大臣賞	宮　城	平間　久義	ハーブ等(苗物)	
7回(9年度)	農林水産大臣賞	静　岡	とぴあ浜松農業協同組合	ガーベラ(切り花)	第37回農林水産祭 天皇杯受賞
7回(9年度)	農産園芸局長賞	青　森	竹ノ原幸悦	カーネーション等(切り花)	
7回(9年度)	農産園芸局長賞	埼　玉	立石　勝義	ポインセチア等(鉢物)	
7回(9年度)	農産園芸局長賞	福　岡	南嶋精二朗	ベゴニア等(苗物)	
7回(9年度)	農産園芸局長賞	長　崎	本田　敏秀	カーネーション等(切り花)	
7回(9年度)	財団法人日本花普及センター会長賞	岐　阜	フローラぎふI	カランコエ(鉢物)	
7回(9年度)	財団法人日本花普及センター会長賞	京　都	月本　雅治	バラ(切り花)	
7回(9年度)	財団法人日本花普及センター会長賞	兵　庫	中岡　邦康	カーネーション(切り花)	
7回(9年度)	財団法人日本花普及センター会長賞	大　分	市川　一清	スイトピー等(切り花)	
7回(9年度)	財団法人日本花普及センター会長賞	沖　縄	渡久山　稔	キク(切り花)	

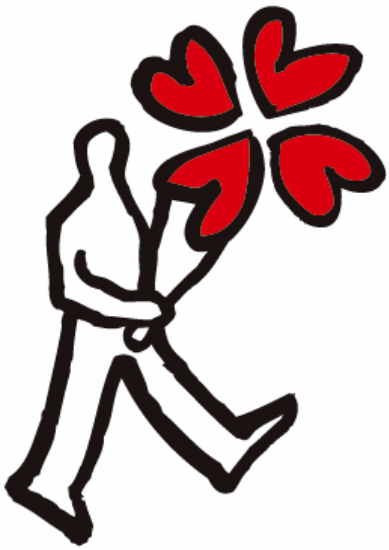
回(年度)	受賞区分	都道府県	受賞者名	生産品目	備　考
6回(8年度)	農林水産大臣賞	栃　木	菱沼　軍次	シクラメン等(鉢物)	
6回(8年度)	農林水産大臣賞	静　岡	大庭　孝史	パキラ等(観葉植物)	
6回(8年度)	農産園芸局長賞	埼　玉	新　　博之	カランコエ等(鉢物)	
6回(8年度)	農産園芸局長賞	京　都	寺内　一郎	パンジー等(苗物)	
6回(8年度)	農産園芸局長賞	福　岡	大隈　博幸	バラ等(切り花)	
6回(8年度)	農産園芸局長賞	沖　縄	外間　勝義	キク等(切り花)	
6回(8年度)	財団法人日本花普及センター会長賞	宮　城	斉藤　達義	シクラメン等(鉢物)	
6回(8年度)	財団法人日本花普及センター会長賞	群　馬	小嶋　　宏	バラ(切り花)	
6回(8年度)	財団法人日本花普及センター会長賞	岐　阜	安保　幹太	シンピジウム等(鉢物)	
6回(8年度)	財団法人日本花普及センター会長賞	奈　良	堀田　泰規	プリムラ等(苗物)	
6回(8年度)	財団法人日本花普及センター会長賞	高　知	広岡　　稔	アイリス等(切り花)	
6回(8年度)	財団法人日本花普及センター会長賞	高　知	小池　龍善	キク等(切り花)	
5回(7年度)	農林水産大臣賞	岐阜	福田　　誠	セントポーリア等(苗物)	
5回(7年度)	農林水産大臣賞	福岡	波佐間　廣美	ディフェバキア等(観葉植物)	
5回(7年度)	農産園芸局長賞	群馬	萩原　久雄	シクラメン等(鉢物)	
5回(7年度)	農産園芸局長賞	埼玉	千野　純一	インパチェンス等(鉢物)	
5回(7年度)	農産園芸局長賞	大分	飯田花き生産組合 (代表者)時松　　謙	バラ等(切り花)	
5回(7年度)	農産園芸局長賞	沖縄	宮平　憲勇	キク(切り花)	
5回(7年度)	財団法人日本花普及センター会長賞	宮城	手島　　徹	シクラメン等(鉢物)	
5回(7年度)	財団法人日本花普及センター会長賞	長野	金本　達夫	バラ(切り花)	
5回(7年度)	財団法人日本花普及センター会長賞	京都	矢野　伸太郎	ストック(切り花)	
5回(7年度)	財団法人日本花普及センター会長賞	奈良	多田　　護	ベニカナメモチ(植木)	
5回(7年度)	財団法人日本花普及センター会長賞	佐賀	水田　義雄	キク(切り花)	
4回(6年度)	農林水産大臣賞	宮城	渡辺　　俊	シクラメン等(鉢物)	
4回(6年度)	農林水産大臣賞	埼玉	金子　　正	カラジューム等(鉢物)	
4回(6年度)	農産園芸局長賞	群馬	中山　忠義	洋ラン(切り花・鉢物)	
4回(6年度)	農産園芸局長賞	福岡	和佐野　喜代太	コチョウラン等(鉢物)	
4回(6年度)	農産園芸局長賞	佐賀	中江　広域	キク(切り花)	
4回(6年度)	農産園芸局長賞	大分	志賀　智貴	ユリ(切り花)	
4回(6年度)	財団法人日本花普及センター会長賞	岩手	木村　勇一	プラグ苗等(苗物)	
4回(6年度)	財団法人日本花普及センター会長賞	岐阜	林　　一郎	ポインセチア等(鉢物)	
4回(6年度)	財団法人日本花普及センター会長賞	奈良	明崎　勝治	ダリア等(切り花・球根生産)	
4回(6年度)	財団法人日本花普及センター会長賞	長崎	町田　一弘	スイトピー等(切り花)	
4回(6年度)	財団法人日本花普及センター会長賞	鹿児島	利田　正明	カーネーション等(切り花)	
3回(5年度)	農林水産大臣賞	茨城	鈴木　　隆	ホウズキ等(鉢物)	
3回(5年度)	農林水産大臣賞	沖縄	亀谷　英雄	キク等(切り花)	
3回(5年度)	農産園芸局長賞	秋田	三浦　康之	トルコギキョウ等(切り花)	
3回(5年度)	農産園芸局長賞	群馬	小内　敬一	アジサイ等(鉢物)	
3回(5年度)	農産園芸局長賞	埼玉	矢作　文夫	カトレア等(鉢物)	
3回(5年度)	農産園芸局長賞	高知	山崎　廣美	ユリ等(切り花)	
3回(5年度)	財団法人日本花普及センター会長賞	京都	森島　衛樹	ハナショウブ等(切り花)	
3回(5年度)	財団法人日本花普及センター会長賞	奈良	吉川　喜一	シクラメン等(鉢物)	
3回(5年度)	財団法人日本花普及センター会長賞	広島	沖野　高人	(花木)	
3回(5年度)	財団法人日本花普及センター会長賞	福岡	田代　恒夫	バラ等(切り花)	
2回(4年度)	農林水産大臣賞	栃木	渡辺　武雄	コチョウラン等(鉢物)	
2回(4年度)	農林水産大臣賞	静岡	渡辺　　偉	クレマチス等(苗物)	
2回(4年度)	農産園芸局長賞	岩手	畠山　正徳	リンドウ等(切り花)	
2回(4年度)	農産園芸局長賞	群馬	大沢　憲一	バラ(切り花)	
2回(4年度)	農産園芸局長賞	東京	浅沼　一治	フェニックス等(鉢物)	
2回(4年度)	農産園芸局長賞	福岡	和佐野勝次	リンドウ等(切り花)	
2回(4年度)	財団法人日本花普及センター会長賞	埼玉	町田　静吾	バラ(切り花)	
2回(4年度)	財団法人日本花普及センター会長賞	長野	竹内　栄一	バラ(切り花)	
2回(4年度)	財団法人日本花普及センター会長賞	京都	今村　喜和	キク等(切り花)	
2回(4年度)	財団法人日本花普及センター会長賞	奈良	吉村　隆明	インパチェンス等(鉢物)	
2回(4年度)	財団法人日本花普及センター会長賞	大分	藤原　博文	キク(切り花)	

回(年度)	受賞区分	都道府県	受賞者名	生産品目	備　考
1回(3年度)	農林水産大臣賞	岩手	猿子　恵久	アルストロメリア等(切り花)	
1回(3年度)	農林水産大臣賞	埼玉	本多　忠夫	シクラメン等(鉢物)	
1回(3年度)	農産園芸局長賞	栃木	菱沼　軍次	シクラメン等(鉢物)	
1回(3年度)	農産園芸局長賞	群馬	阪本　正次	アジサイ等(鉢物)	
1回(3年度)	農産園芸局長賞	長野	筒井　基博	シクラメン等(鉢物)	
1回(3年度)	農産園芸局長賞	岐阜	河本　弘元	バラ(切り花)	
1回(3年度)	財団法人日本花普及センター会長賞	静岡	岩倉　廣治	(観葉植物)	
1回(3年度)	財団法人日本花普及センター会長賞	京都	完岡　義清	カキツバタ(切り花)	
1回(3年度)	財団法人日本花普及センター会長賞	広島	中本　博文	ハボタン等(苗物)	
1回(3年度)	財団法人日本花普及センター会長賞	大分	時松　　謙	バラ等(切り花)	

(注) 花の国づくり共励会花き技術・経営コンクールは、農林水産祭参加行事として承認されており、本コンクールの農林水産大臣賞出品財は、毎年度行われる農林水産祭において天皇杯等の選賞資格を有することになっています。備考欄は、これまでの農林水産祭において天皇杯、内閣総理大臣賞を受賞された方々です。

.

.



いいこと
あった日、
花を買う。

花っていいよね。キャンペーン